

平成28年1月20日

## 事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長殿

都道府県教育委員会等名 学校法人 光華女子学園  
 所 在 地 京都府京都市右京区西京極野田町39  
 代 表 者 職 氏 名 理事長 阿部 敏行

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

## 1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

## 2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	きょうとうかこうとうがっこう	ふりがな	ちょうじゃ みさと
学校名	京都光華高等学校	校長名	長者 美里
ふりがな	きょうとうかちゅうがっこう	ふりがな	ちょうじゃ みさと
学校名	京都光華中学校	校長名	長者 美里
ふりがな	こうかしょうがっこう	ふりがな	かぶらぎ よしお
学校名	光華小学校	校長名	鏑木 良夫

## 3. 研究内容

## (1) 研究開発課題

「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」に基づき、自国の文化の理解・発信能力の育成とグローバル化社会に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材（児童生徒）育成のための英語教育の構築を図る。

## (2) 研究の概要

グローバル化する社会の中で、将来、世界の人とともに生きる力を育成することを目標とする。他国の人々とコミュニケーションが円滑に図れる人となるための英語教育構築を図るために、小・中・高の一貫性のある英語教育を系統的に実施する。一貫した学習到達目標・カリキュラムづくりを縦軸とし、つけたい力の系統性・評価方法・指導内容・指導方法を横軸として効果的な方策を探り実践する。その際に、本校で実施している日本の伝統文化・京都ならではの年中行事や学校独自の行事についての教育との連携を図る。そのことに加え、他教科とも連携した単元を折り込むことによる独自教材等も開発していく。特に小学校においては、モジュール学習や教科としての英語教育、中学・高校においては、言語活動の高度化を図るための指導内容・指導方法についての研究を行う。この研究の推進にあたり、地域の大学とも連携し、指導教員の授業改善・指導力向上等の人材育成を図る。また、取組の成果を私立・公立学校に還元できるようにする。

## (3) 現状の分析と仮説等

## ①現状の分析と研究の目的

## ア. 現状の分析

本年度より、小学校・中学校・高等学校の英語教育について、各校が連携を取りながら英語教育を行ってきた。その中で、今後、さらに小・中・高等学校において一貫性のある英語教育や各校での取組について効果的な方法を考える必要がある。1年間の取組の中で見えてきた課題点は以下のように分析できる。

## 〔小・中・高共通〕

- ・ 教育課程を見直し、小・中・高等学校をつなぐカリキュラムや「CAN-DO リスト」の形での一貫した学習到達目標を作成しているが、完成には至らず不十分な点がある。
- ・ パフォーマンステストについての共通理解とそれが適正に評価に組み入れられているか検証が必要である。
- ・ 指導計画に基づき、児童生徒の発達段階に応じて、内容・指導方法・教材を作成しているが、児童生徒の実態等を踏まえ、見直しを必要とする単元も出てきている。
- ・ 日本の伝統文化・行事、地域・学校行事、他教科との連携を組み入れた単元開発を行っているが、それがどのように児童生徒の活きた言語活動に寄与するかどうかを検証できていない。
- ・ 指導者の授業力向上を図るための研修会・教科会の充実等を図っているが、グローバル化に対応する系統的な英語教育を実践できる指導力の育成と教員一人一人の意識改革をさらに行うための研修等が必要である。
- ・ 電子黒板や ICT 機器を活用した授業づくりにおいて、教員間にばらつきがある。それらを積極的に活用していくことで、よりオーセンティックな英語に触れる機会等も学習者に提供できると考える。そのための研修や研究が必要である。

## 〔小学校〕

- ・ 昨年度までは Oxford の本を使用しており、指導をネイティブにまかせ、学級担任が英語活動を担当していなかったが、現在1年生から4年生までは学級担任とネイティブ、5・6年生は学級担任と英語専科で授業を組んでいる。毎回、指導案を作成し、授業の前に学級担任とネイティブ・専科で授業の流れ等の打合せを行い、児童の実態に合わせて意見を出し合っている。今後、効果的なティームティーチングやモジュール活動・コミュニケーション活動において、指導内容・指導方法・役割分担を考えていく必要がある。
- ・ 週1時間、英語の授業を実践しているが、語彙不足等もあり、児童の言いたいこと（自己表現）が限られている。絵辞典の効果的な使用方法や多くの語彙に触れる取組を考える必要がある。
- ・ 授業の冒頭10分間を、1年～4年は学級担任による「読み聞かせ」、5～6年は「文字指導」を導入し、「読むこと」「書くこと」につながる指導を2学期より試行している。しかし、「聞くこと」「話すこと」のコミュニケーション活動の時間が以前より減り、授業冒頭10分の活動とコミュニケーション活動（35分）のつながりがで

きていない。また、現在5・6年生で取り組んでいる文字指導が効果的であるか検証する必要がある。

- ・ 学校行事や日本文化、地域等と関連した内容を含めてカリキュラムを作成し、2学期から修正を加えながら試行している。しかし、低中学年と高学年との連携の部分で、学習内容が重複する部分もあり、カリキュラムの更なる整備が必要である。
- ・ CAN-DOリストを作成したが、授業実践の中で修正を加えながら、学年毎の達成目標を具体化すること等も研究・検証をしていく必要がある。評価についても英語学習の伸びと課題がわかり、児童のためのものになっているか検証する必要がある。

#### [中学校]

- ・ 小学校英語とのつながりのあるカリキュラムを作成し、現在実施中であるが、連携小学校の授業時間数が増えることにより、教科化された英語教育を受けた生徒と受けていない生徒について、それぞれに対応した体制とカリキュラム等を作成する必要がある。また、中高接続に向けてのカリキュラムになっているか検証が必要である。
- ・ 作成したCAN-DOリスト・学習到達目標と適正な評価方法についての検証ができていない。
- ・ 今後、小学校の時間数が増えることを念頭に、特に「読む」「書く」についての入門期の指導方法については、作成途中である。また授業の中で適宜、文字指導を行っているが、「読むこと」「書くこと」の学習に支障をきたす生徒がいる。指導者によってもばらつきがあるので、共通理解し、効果的な方策を探り、実践することが必要である。
- ・ まとまった英文を読んで、自分の考え・意見等を論理的に英語で書くことについては生徒間で差がある。また、自己表現や語彙力強化のための語彙指導や辞書指導について系統だった指導内容や指導方法が確立されていない。
- ・ 英語によるスピーチ・プレゼンテーションの基礎力育成を図っている。また「発表」と「やりとり」を重点とした目標・内容を考え、実践している。しかし、あいづちや簡単なコメントについてはある程度成果が出ていると思うが、聞いた内容について即座に質問する力については弱い。今後、質問力をつける必要がある。
- ・ 簡単な読み物教材を授業の中で扱い、多読へつながる「読み」の指導を行っているが、系統性がなく、今後、研究を進める必要がある。
- ・ 授業中は、できる限り多くの英語を使用し進めているが、指導内容によっては、難しい部分もある。

#### [高等学校]

- ・ CAN-DOリストの形での学習到達目標を作成した。しかし、学習到達目標・教育内容を再確認し、コース別（習熟度別）に検証及び修正する必要がある。
- ・ 作成したCAN-DOリスト・学習到達目標と適正な評価方法についての検証ができていない。
- ・ 中高の接続を意識したカリキュラムを作成したが、そのカリキュラムの検証と中高の接続をより意識した指導内容・指導方法の検討が必要である。

- ・ 高校では以前は文法訳読式授業になりがちであったが、本年度、4技能を意識した指導やコミュニケーション能力を身につけるための効果的な指導方法や指導内容について研究を進めているところである。今後は、生徒の習熟度に応じた指導方法を研究し、単元の内容に適した指導内容を事前に計画及び実践していくことが必要である。
- ・ コミュニケーション英語と英語表現の双方の担当で連携し、生徒の言語能力を伸ばしていけるような効果的な指導が行えていない。
- ・ スピーチ・プレゼンテーションについて取組を始め、自分が作成した原稿を基にした発表では一定の成果があった。今後は、場面や話題に応じて即興で質問をしたり、意見を表明したりできる英語力や積極的な姿勢が身につくように、習熟度に応じた指導をする必要がある。
- ・ 討論・交渉などの高度な言語活動の指導については、さらに研修を重ねた上で、計画的に実践する必要がある。
- ・ 多読へつながる「読み」の指導を始めているが、まだ試行段階である。日常の授業と関連性・系統性を持たせた「読み」になるよう研究を進め、計画的に実践する必要がある。
- ・ 各自、研修会に参加し、伝達研修を行ったり、学識者による指導・助言を受けたりしているが、指導者一人一人の授業力向上についての更なる研修や研究授業を行う必要がある。
- ・ 日常の授業でリスニング練習を行うだけでなく、一部のクラスで授業内及び授業外でテストを実施した。今後は、習熟度や学年に係わらず、より計画的、効果的に「聞く力」をはかる機会を設定できるよう検討する必要がある。
- ・ 検定教科書を1課終わるごとに自分の思いや意見、経験などを「書く」活動を行い、これを定期考査にも取り入れた。今後は、習熟度に応じたタスクを検討した上で、ALTと連携して効果的かつ継続的に「書く」活動を行う必要がある。
- ・ 授業は、英語で進めることを基本としているが、それが実践できていない場合がある。

## イ. 研究の目的

上記の課題等も含め、グローバル化に対応した英語によるコミュニケーション能力を育成するため、以下のことについて実践し、児童生徒の英語力向上に寄与するかを確定していく。また、指導教員の授業力向上を図るとともに、取組の成果を他校へ還元していく。

[小・中・高共通]

- ・ 小学校教科化・時間数増等を見据え、教育課程を見直し、作成した小・中・高等学校をつなぐカリキュラムや「CAN-DO リスト」の形での一貫した学習到達目標の確立と検証を行う。また、指導計画に基づき、児童生徒の発達段階に応じてどのような指導内容・指導方法・教材が効果的であるのかどうかについて、更なる検証を行う。
- ・ パフォーマンス評価をはじめとし、評価の在り方について検証する。
- ・ 指導計画に基づき、児童生徒の発達段階に応じた内容・指導方法・教材になっているか、また、日本の伝統文化・行事、地域・学校行事、他教科との連携を組み入れた単元が、どのように児童生徒の活きた言語活動に寄与するかを検証する。

- ・ 指導者の授業力向上を図るための研修会等を設定する。指導者が孤立することなく連携することにより、指導者の心理的な負担を軽減させる。このことで系統的な英語教育を確実に実践できるかどうかについて検証する。
- ・ 必要に応じて、電子黒板といった ICT 機器による教育も積極的に活用していく。よりオーセンティックな英語に触れる機会を提供できると考える。そのことで児童生徒が英語に親しみを覚え、英語使用への心理的なハードルを低めることができるかどうかについて検証する。
- ・ 授業公開や研究発表会など、取組の成果を他校へも発信していく。

#### [小学校]

- ・ 毎日のモジュール学習についてのカリキュラム作成と検証を行う。
- ・ 指導内容・指導方法・役割分担を考えた効果的なチームティーチングや授業づくりについて検証する。
- ・ 系統性のある効果的な語彙指導について指導法を確立する。
- ・ 「読むこと」「書くこと」につながる系統だったカリキュラム・指導方法を確立する。また、それが、中学校段階での「読むこと」「書くこと」に支障をきたす生徒を減らすことができるかどうか、また、英語学習への心理的な負担軽減について検証を行う。
- ・ 作成した年間指導計画や評価計画が有効であるか検証する。
- ・ コミュニケーション活動の充実を図る。
- ・ CAN-DOリストや評価が、児童の学習意欲にもつながるように、その方策を探り、検証する。

#### [中学校]

- ・ 作成したカリキュラムの検証と教科化された英語教育を受けた生徒と受けていない生徒について、それぞれに対応した体制とカリキュラム等を作成する。
- ・ 作成したCAN-DOリスト・学習到達目標と適正な評価方法についての検証を行う。
- ・ 「読むこと」「書くこと」について、入門期の指導方法の確立と効果的な文字指導・フォニックス指導について系統性のある指導方法を確立する。
- ・ 小学校での言語活動を基に、生徒の発達段階に応じた言語活動を行うとともに、少し「背伸び」をさせる活動に取り組みせることで、より高度化した言語活動にもあえて挑戦させ、これらの活動が英語コミュニケーション能力の確実な習得に向けて効果的であるかどうかについて検証する。
- ・ 多読についての効果的な方策を探る。
- ・ 授業を英語で行うための効果的な授業づくりについての研修を行う。

#### [高等学校]

- ・ 作成したカリキュラムやCAN-DOリスト・学習到達目標と適正な評価方法について、中学校との連携を考えつつ検証・修正を行う。

- ・ 英語を苦手とする生徒に対しても、基礎学力の定着と平行して基本的な言語活動が行える指導法を研究する。
- ・ 中学校との連携を踏まえた学校行事と関連した発信型タスクの開発を行う。
- ・ 生徒の習熟度に応じたノートの活用方法、ハンドアウトの様式を工夫する。
- ・ 討論・交渉などの高度な言語活動を授業に取り入れ、これらの活動が、社会性の高い話題について英語でコミュニケーションを行う能力の確実な習得に向けて効果的であるかどうかについて検証を行う。
- ・ レベル別の多読用教材を用いて、辞書を引かずに未知語を類推しながら平易な英文を大量に読む習慣の定着を図る。
- ・ 授業を英語で行うための指導者の意識改革や研修を行う。

## ②研究仮説

- ① の現状の分析と研究目的から以下のような手段に従って研究を行う。

### ウ 具体的手段

[小・中・高共通]

- ・ 小学校教科化・時間数増等、教育課程を見直す。作成した小・中・高等学校をつなぐカリキュラムや「CAN-DO リスト」の形での一貫した学習到達目標や指導計画に基づき、児童生徒の発達段階に応じてどのような指導内容・指導方法・教材が効果的であるについて、定期的に会議を持ち、検証と修正を行う。
- ・ パフォーマンス評価をはじめとし、評価の在り方についての研修会を持ち、指導者が共通理解をし、評価や評価計画について研究を進める。
- ・ 指導計画に基づき、日本の伝統文化・行事・地域・学校行事や他教科との連携を組み入れた単元が、児童生徒の発達段階に応じた内容・指導方法・教材になっているか、単元終了時に検証と修正を行う。
- ・ 指導者の授業力向上やグローバル化に対応する系統的な英語教育を実践できる指導力育成のための研修会・教科会の充実を図る。また、京都外国語大学をはじめとし、学識者を招き、指導・助言もいただきながら、各自が公開授業・授業研究を行ったり、研修会等を設けたりして、指導者の授業力向上を図る。
- ・ 地域人材の積極的な活用を進める。
- ・ 電子黒板やICT機器やCD・DVD等を活用した授業づくりについての研修会を持ち、よりオーセンティックな英語に触れさせる機会を児童生徒に提供する。
- ・ 定期的に学識者より、指導・助言をいただき、よりよい英語教育の構築を図る。
- ・ 研究発表会を設定し、私立・公立学校の多くの教員の参加を呼びかけ、意見を聞いたり、取組の成果を発表したりする。
- ・ 公開授業や授業研究会を持ち、他校の先生方との交流会をもてるように働きかける。

[小学校]

- ・ 小学校での英語授業時数やモジュール時間と正規の授業の持ち方について研究を行う。

- ・ モジュール学習のカリキュラムを作成し、実践する。
- ・ 作成したカリキュラムが児童の発達段階、興味・関心や地域・学校行事等にも連携した小・中・高等学校のつながりのあるものになっているか、単元終了時に検証と修正を行う。
- ・ 1年生から4年生までは学級担任とネイティブ、5・6年生は学級担任と英語専科で行うティーム・ティーチングにおいて、効果的な指導内容・指導方法・役割分担を考える。
- ・ 自己表現を支える語彙について、絵辞典等も使用しながら、効果的な語彙指導についての指導方法を探り、実践する。
- ・ 「読むこと」「書くこと」につながる系統だったカリキュラムを作成し、実践する。3年生よりヘボン式ローマ字も導入し、アルファベット文字の読み・書き、発音、発音と綴りの関係、文構造への気付きについても研究を行う。
- ・ 効果的に絵本を活用し、多読へつながる指導を考える。
- ・ モジュール学習と正規の授業との連携を図る。
- ・ 簡単な自己表現を含む活動や児童が中心となって進めることのできるグループ活動・言語活動の方策を探り、実践する。
- ・ コミュニケーション活動として、発表する力や聞いたことについて、簡単なあいづちやコメントを述べる力を育成するために、単元の最終には必ず自分の思いや考えを述べる場面を設定する。
- ・ CAN-DOリストや評価が、児童の学習意欲にもつながるものになっているか常に検証と修正を行い、適正な評価について検証を行う。
- ・ 「Hi, friends!」や文科省からの独自教材をベースとし、児童の実態に応じて単元の開発を行う。

#### [中学校]

- ・ 教科化された英語教育を受けた生徒と受けていない生徒について、それぞれに対応した体制とカリキュラム等について研究を行う。
- ・ 小中・中高をつなぐカリキュラムになっているか、小・高の指導者とも連携を取り、実践し、その都度検証と修正を行う。
- ・ 作成したCAN-DOリスト・学習到達目標について、単元終了時に検証と修正を行っていく。
- ・ 「読むこと」「書くこと」についての入門期の指導内容の作成と指導方法を実践していく。また効果的な文字指導・フォニックス指導について系統性のあるカリキュラムを作成し、実践する。
- ・ 単元の最終目標として必ず、英語によるスピーチ、プレゼンテーション、ミニ・ディスカッション、ミニ・ディベートなどを設ける。発表の仕方を工夫することにより、「発表」と「やりとり」を重点とした目標・内容について検証を行い、指導方法の確立を目指す。あいづち、コメントはもちろんのこと、聞いた内容について即座に質問する力をつけていけるような指導方法について考え、実践する。
- ・ 高度な言語活動を支える基礎・基本の確実な定着を図る。

- ・ 高度化した言語活動につなげるため、まとまった英文を読んで、自分の考え・意見等を論理的に英語で書くことについての指導方法の確立と教材を開発し実践する。また、話型や語彙力強化のための方策を探る。
- ・ 多読へつながる系統的な「読み」の指導を行う。
- ・ 指導者はもちろんのこと、生徒が授業中、英語で話す場面設定を多く取り、指導者と生徒とのやりとりも含んだ、英語を用いた授業づくりを考え、実践する。

#### 〔高等学校〕

- ・ 音読指導を様々な方法で効果的に行い、正しい発音、アクセント、イントネーション、間の置き方などを身につけるだけでなく、英文の意味や内容を考えながら読む力の育成を図る。
- ・ 日々の授業時のペア活動、Q & Aを帯活動として定着させる。
- ・ 本文の内容理解を促進し、自己表現につなげる橋渡しとしてのリテリングや要約する活動を充実させ、ペアやクラス全体での発表の機会を定期的に設ける。
- ・ 「聞くこと」「話すこと」については、論理的にスピーチ・プレゼンテーション・ディベート・討論などを行い、それについて質疑応答やまとまったコメントが述べられるような力を育成できる言語活動に取り組む。また、自国の文化等の理解とそれらへの考えを発信する中で、自分の意見と他の意見を比較・討論・交渉できる力を育成する。
- ・ 1・2年生では毎レッスンの終わりに「書く」活動を入れ、論理的にまとまった英文を書くことができる力の育成を図るための指導方法を確立し、教材を開発する。
- ・ ALT との効率的、効果的なチームティーチングについて教科内で検討し、そのあり方について必要に応じて改善していく。
- ・ 中学校で実施しているタスクを意識しつつ、よりハイレベルな活動になるようにテーマを設定し、計画的に言語活動を実施する。
- ・ 各教員が Classroom English の表現集を作成し、それを交換し合い、使える表現を増やすとともに、どの授業も英語で進められるようにする。
- ・ 生徒の習熟度に応じたノートの活用方法、ハンドアウトの様式について、全教員で共通理解できるようにひな形を作成する。

具体的成果としては以下の点が挙げられる。

#### エ 期待される成果

##### 〔小・中・高共通〕

- ・ 各段階での学習到達目標を設定した効果的なカリキュラムや各段階での力の系統性・評価方法を確立でき、小・中・高等学校の円滑な移行ができる。
- ・ 評価の在り方について一定の知見を示すことができる。
- ・ 身近な話題から幅広い話題について発信できる力の育成ができる。
- ・ 児童生徒の発達段階に応じた英語による発信型のコミュニケーション力をつけることが期待される。



- ・ 自国を愛し、自国の文化等について、自分のことばで発信できる人材を育成できる。
- ・ 指導者の授業力向上が期待できる。
- ・ ICT 機器を利用した効果的な授業づくりが期待できる。
- ・ 他校の英語教育にも貢献できる。

#### [小学校]

- ・ モジュール学習を行うことにより、児童の英語学習に寄与することができる。
- ・ 効果的なカリキュラム・指導内容・指導方法・ティームティーチングの授業が期待できる。
- ・ 自己表現をささえる語彙力がつく。
- ・ 「読むこと」「書くこと」の素地づくりができ、中学校段階での「読むこと」「書くこと」に円滑な接続ができる。
- ・ コミュニケーション活動の充実を図ることができる。
- ・ CAN-DOリストを児童に示すことができ、児童が英語学習についての見通しがもてる。

#### [中学校]

- ・ 教科化された英語教育を受けた生徒と受けていない生徒についての格差を縮めることができる。
- ・ CAN-DOリストを生徒に示すことにより、各単元のねらいや到達目標を知り、英語学習に生徒は見通しを持つことができる。
- ・ 「読むこと」「書くこと」についての入門期の指導方法の確立と効果的な文字指導・フォニックス指導について系統性のある指導方法を確立することにより、「読むこと」「書くこと」への生徒の負担軽減を図ることができる。
- ・ 高度化した言語活動を工夫することにより、高等学校につながるコミュニケーション能力を身につけることができる。
- ・ 定期的にまとまった文を読むことにより、まとまった文を読むことへの苦手意識の解消と多読へつなげることができる。
- ・ 授業を英語で行うことにより、聞く力、推測する力、授業の中で生徒も英語を使おうとする態度を育成することができる。

#### [高等学校]

- ・ 中学校との連携を意識した上で少しレベルを上げた活動を行うことにより、1年生も違和感なく高校での英語学習のスタートを切ることができ、苦手意識を軽減するとともに、4技能の向上をはかることができる。
- ・ CAN-DOリストを生徒に示すことにより、各単元のねらいや到達目標を知り、生徒は英語学習に見通しを持つことができる。
- ・ 日常的にペア活動、Q&Aを帯活動として行うことにより、即興で英語を話すことへの抵抗感をなくし、海外での研修旅行時などに役立てることができる。
- ・ リテリングや要約の活動により、自分の言いたいことを自分の言葉で表現したり、自分

の意見の要点を簡潔に英語でまとめたりする力を養うことができる。

- ・ 発表、討論など自分の意見・考えを論理的に表現できる人材が育成できる。
- ・ 多読、週末課題などで定期的にまとまった英文を読むことにより、まとまった英文を読むことへの苦手意識を解消し、未知語を類推しながら内容を理解する力を養うことができる。
- ・ 授業を英語で行うことにより、聞く力、推測する力、授業の中で生徒も英語を使おうとする態度などを育成することができる。
- ・ ノートやハンドアウトを活用することにより、情報を素早く分析し、自分の考えをわかりやすく整理してまとめる力を養うことができる。

### ③研究成果の評価方法

研究成果の評価方法として以下のことが挙げられる。

- ・ 学力調査・定期的なテストの実施による評価
- ・ 授業観察による評価
- ・ パフォーマンステストの活用による評価
- ・ CAN-DOリスト（学習到達度）の活用
- ・ 発表・作品・ワークシート等による評価
- ・ 各授業内での目標設定と自己評価シート・相互評価シートの活用
- ・ 児童生徒、指導者、保護者を対象としての英語教育に関する意識調査による評価
- ・ 定期的なアンケート調査
- ・ 各種検定試験の活用による評価

### (4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第1～4学年 1コマ	第1・2学年 1コマ 第3・4学年 2コマ(モジュール9分×5回含む)	第1・2学年 1コマ 第3・4学年 2コマ(モジュール9分×5回含む)	第1・2学年 1コマ 第3・4学年 2コマ(モジュール9分×5回含む)
②小学校 教科型	第5・6学年 1コマ	第5・6学年 3コマ (モジュール9分×5回含む)	第5・6学年 3コマ (モジュール9分×5回含む)	第5・6学年 3コマ (モジュール9分×5回含む)

## (5) 研究計画

○第一年次～第四年次、校種別

### 小学校（教科型）

〔第一年次〕（試行年度とする）

#### 研究の重点

- ・ 文字導入も含め、中学校への円滑な移行のための効果的なカリキュラムづくりを行う。
- ・ モジュールのカリキュラムと指導方法を研究する。
- ・ 学習到達目標を設定する。

#### 実践内容の概要

- ・ 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定と評価方法についての研究を行う。
- ・ 他教科や学校行事・日本の文化等とも連携したカリキュラムづくりを行う。
- ・ 作成したカリキュラムを2学期には試行して、評価を行い修正する。
- ・ 「読むこと」「書くこと」の導入として読み聞かせとフォニックス指導を行う。
- ・ 担任による読み聞かせ活動を行う。
- ・ 専科と学級担任による効果的な授業の研究を行う。
- ・ 絵辞典も活用し、語彙指導を行う。
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ Let's go 2
- ・ Oxford Reading Tree
- ・ 独自のフォニックス教材
- ・ 他教科・臨海学校、修学旅行等学校行事に関連した独自教材
- ・ 絵辞典

〔第二年次〕

#### 研究の重点

- ・ モジュール活動における効果的な指導を研究する。
- ・ 発表を中心とした言語活動とそれらが児童に与える効果を調査する。
- ・ 「読むこと」「書くこと」についての研究を進める。
- ・ 学習到達目標と評価が妥当なものであるかを調査する。

#### 実践内容の概要

- ・ 学習到達目標と評価について検証を行う。
- ・ モジュール学習についての研究を行う。
- ・ 他教科・日本の伝統文化・学校行事等と連携したタスク活動を実践する。
- ・ モジュール活動、言語活動を通して文字指導も行う。
- ・ 読み聞かせを継続的に行い、多読につながる指導を行う。

- ・ 「読むこと」「書くこと」の素地をつくる。
- ・ 「発音と綴りの関係」、「文構造への気付き」についても研究を行う。
- ・ ピクチャー・ディクショナリーを用いた辞書指導
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ 文科省作成の補助教材
- ・ Let's go 2
- ・ Oxford Reading Tree
- ・ 独自の自己表現集
- ・ 日本の伝統文化・学校行事にちなんだ独自教材
- ・ 多読用教材
- ・ ピクチャー・ディクショナリー

#### 〔第三年次〕

##### 研究の重点

- ・ 第二年次の課題を踏まえた「聞くこと」「話すこと」の能力の向上を目指す。  
また「読むこと」「書くこと」の効果的な言語活動についての指導方法を開発する。

##### 実践内容の概要

- ・ 「聞くこと」「話すこと」の力をつける言語活動の指導内容・方法の確立と実践
- ・ 語彙・文字指導を重視したモジュール活動
- ・ 低学年児童対象読み聞かせ会
- ・ 辞書の活用による語彙力の定着、促進
- ・ 検定試験への取組
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ 文科省作成の補助教材
- ・ Let's go 2
- ・ Oxford Reading Tree
- ・ 独自の自己表現集
- ・ 日本の伝統文化・学校行事にちなんだ独自教材
- ・ 多読用教材
- ・ ピクチャー・ディクショナリー

## 〔第四年次〕

**研究の重点**

- ・ 「聞くこと」「話すこと」を中心に「読むこと」「書くこと」の指導も加えて、初歩的な英語運用能力を育成する。

**実践内容の概要**

- ・ 「聞くこと」「話すこと」の力をつける言語活動の充実
- ・ 語彙・文字指導を重視したモジュール活動
- ・ 低学年への読み聞かせ会
- ・ 辞書を活用し、語彙力をつける
- ・ 「読むこと」「書くこと」の継続指導とそのことへの検証
- ・ 検定試験の取組
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

**使用教材及び開発する教材**

- ・ 文科省作成の補助教材
- ・ Let's go 2
- ・ Oxford Reading Tree
- ・ 独自の自己表現集
- ・ 日本の伝統文化・学校行事にちなんだ独自教材
- ・ 多読用教材
- ・ ピクチャー・ディクショナリー

**小学校（外国語活動型）**

## 〔第一年次〕（試行年度とする）

**研究の重点**

- ・ 効果的なカリキュラムづくりを行う。
- ・ 学習到達目標を設定する。

**実践内容の概要**

- ・ 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定と評価方法についての研究を行う。
- ・ Hi, friends を中心に他教科や学校行事とも連携したカリキュラムづくりを行う。
- ・ 担任による読み聞かせ活動を行う。
- ・ 専科と学級担任による効果的な授業の研究を行う。
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

**使用教材及び開発する教材**

- ・ Hi, friends! 1,2

- ・ Hi, friends! 準拠デジタル教材
- ・ 独自教材
- ・ Let's go 1
- ・ Oxford Reading Tree

### 〔第二年次〕

#### 研究の重点

- ・ 「聞くこと」「話すこと」について児童の実態に応じた効果的な言語活動について研究を行う。
- ・ モジュール活動における効果的な指導を研究する。
- ・ 外国の文化と自国の文化について理解したり、触れたりする活動を取り入れる。

#### 実践内容の概要

- ・ 学習到達目標と評価について検証を行う。
- ・ 「聞くこと」「話すこと」の言語活動について指導内容・指導方法の研究を行う。
- ・ 他教科・日本の伝統文化・学校行事等と連携したタスク活動を開発する。
- ・ 外国や自国の文化について理解したり、触れたりできるような単元や教材を開発する。
- ・ 児童の発達段階に応じた読み聞かせ教材の開発と読み聞かせ活動を継続的に行う。
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）
- ・ 効果的なICT機器の活用について研究する。
- ・ 文字指導を意識した独自のペンマンシップを開発する。
- ・ アルファベットの読み書きとヘボン式ローマ字の定着度を測定・評価する。

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ Hi, friends! 1,2
- ・ Hi, friends! 準拠デジタル教材
- ・ 独自教材
- ・ Let's go 1
- ・ Oxford Reading Tree

### 〔第三年次〕

#### 研究の重点

- ・ 第二年次の課題を踏まえた「聞くこと」「話すこと」の効果的な言語活動の向上を目指す。
- ・ 授業内・外で学習したものを発表する場を設定し、英語への興味・関心を図る。

#### 実践内容の概要

- ・ 「聞くこと」「話すこと」の言語活動の指導内容・方法の確立と実践
- ・ 読み聞かせから発表への活動の場を設定する。
- ・ アルファベット指導において、より効果的な指導法・モジュール活動を研究する。

- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ Hi, friends! 1,2
- ・ Hi, friends! 準拠デジタル教材
- ・ 独自教材
- ・ Let's go 1
- ・ Oxford Reading Tree

#### 〔第四年次〕

##### 研究の重点

- ・ 「聞くこと」「話すこと」を中心に、読み聞かせ活動を継続的に行い、小学校教科型に移行できる素地をつくる。
- ・ モジュール活動や言語活動を通して継続的に文字に触れさせ、小学校教科型での「読むこと」「書くこと」への素地をつくる。

##### 実践内容の概要

- ・ 自分の思いや感想を述べることができる場面設定・指導法・教材について更なる研究を行う。
- ・ 読み聞かせ活動を通して、あいづちや自分の思い・感想を表現する活動に取り組む。
- ・ モジュール・言語活動を通して、アルファベットやヘボン式ローマ字を使う活動に取り組む。
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ Hi, friends! 1,2
- ・ Hi, friends! 準拠デジタル教材
- ・ 独自教材
- ・ Let's go 1
- ・ Oxford Reading Tree

### 中学校

#### 〔第一年次〕

##### 研究の重点

- ・ 小学校での英語教育の流れにたち、中学校への円滑な移行のためのカリキュラム・学習到達目標の設定・評価・指導内容・指導方法についての研究を行う。
- ・ 小学校でのモジュール授業の継続の方法と正規授業との繋がりを意識したカリキュラムの研究を行う。
- ・ 英語による発信型のタスクづくりを行う。

### 実践内容の概要

- ・ 小学校英語を踏まえた「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定と評価方法についての研究を行う。
- ・ 小学校英語とのつながりのあるカリキュラムづくりと自分の思いや考え・意見を述べることができるような單元ごとのタスクを設定し、学習したことを活用し、学校独自の行事とも関連したタスク活動の開発を行う。
- ・ 自己表現や語彙力強化のための辞書指導を行う。
- ・ 「書くこと」への抵抗をなくすために、文字指導（フォニックス）や文構造を意識して論理的にまとまった英文を書くことができる力の素地を育成する。
- ・ 英語によるスピーチ・プレゼンテーションの基礎力育成を行う。
- ・ 聞いた内容について、あいづちや質問したり、コメントを述べたりできる力を育成する。
- ・ 「読むこと」への抵抗をなくすために、授業内・外で定期的に英文を読む時間を設定する。
- ・ 授業は英語で行うことを基本とする。
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

### 使用教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書、ワークブック
- ・ 活用型タスクで使用する独自教材
- ・ 文字指導（フォニックス等）の独自教材
- ・ 辞書
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

### 〔第二年次〕

#### 研究の重点

- ・ カリキュラム・学習到達目標・評価・指導内容・指導法についての検証と修正を行う。
- ・ 論理的に「書くこと」「話すこと」の研究を行う。
- ・ 入門期の指導内容・指導方法についての研究を行う。

### 実践内容の概要

- ・ カリキュラム・学習到達目標・評価計画の検討及びその修正を行う。
- ・ 開発したタスクの検討と修正を行う。
- ・ 論理的に「書くこと」「話すこと」の指導方法の開発を進める。
- ・ 質問力をつける指導方法について研究を進める。
- ・ スピーチ・プレゼンテーション・ディスカッションの指導を行う。
- ・ 多くの英文に触れる機会を設定する。（多読へつなげる）
- ・ 入学生徒の格差解消に向けて「読むこと」「書くこと」についての入門期の指導内容・指導方法についての研究を進める。
- ・ 指導者と生徒とのやりとりも含んだ、英語を用いた授業作りを実践する。
- ・ 「即興性」に重点を置いた言語活動の工夫を行う。



- ・ 外部検定試験の活用
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書、ワークブック
- ・ 活用型タスクで使用する独自教材
- ・ 辞書
- ・ 多読用教材
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

#### 〔第三年次〕

##### 研究の重点

- ・ 授業内外での英語運用能力を育成する。
- ・ 小学校での英語教育を受けた生徒の入学に伴い、小学校英語についての格差解消に向けての英語教育を実施する。

##### 実践内容の概要

- ・ 小学校において教科化された英語教育を受けた生徒と受けていない生徒について、指導時間、指導内容、指導方法の研究を行う。
- ・ 校内の英語環境の整備をする。
- ・ 異学年間・異校種間の英語交流を行う。
- ・ ICTを活用したプレゼンテーションを実施する
- ・ 多読用教材を活用する。
- ・ 英語集会等英語を使う機会を設定する。（行事等）
- ・ 外部検定試験の活用
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

#### 使用教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書・ワークブック
- ・ タスクで使用する独自教材
- ・ 多読用教材
- ・ 辞書
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

#### 〔第四年次〕

##### 研究の重点

- ・ 高校への円滑な接続のため、高度化した言語活動に向けて、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

- ・ 4年間の取組の検証を行う。

### 実践内容の概要

- ・ 言語活動の内容や質・量を増加する。特にスピーチ、プレゼンテーション、ミニ・ディスカッション、ミニ・ディベートなどの発信型授業を多くする。
- ・ 自国の文化や特色について英語で発信できる力をつける。
- ・ 学習到達目標と言語活動の検証を行う。
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）
- ・ 4年間の取組の検証

### 使用教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書、ワークブック
- ・ タスクで使用する独自教材
- ・ 多読用教材
- ・ 辞書
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

## 高等学校

### 〔第一年次〕

#### 研究の重点

- ・ 中学校からの円滑な移行のためのカリキュラム・「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定・評価・指導内容・指導方法についての研究を行う。また高度な自己表現力の育成を図るための効果的な言語活動について探る。

### 実践内容の概要

- ・ 中学校英語を踏まえた「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定と評価方法についての研究を行う。
- ・ 中学校英語とのつながりのあるカリキュラムづくりと学習したことを活用したり、学校独自の行事とも関連したりできるタスクの開発を行う。
- ・ 高度な言語活動についての研究と指導法を研究する。特に論理的思考力を育成し、スピーチ・プレゼンテーションを重点的に実践していく。
- ・ 聞いた内容について、あいづちや質問したり、コメントを述べたりできる力を育成する。
- ・ 自己表現につながる音読指導について研究を進める。
- ・ 授業内・外で定期的に英文を読む時間を設定する。
- ・ 授業は英語で行う。
- ・ 研究授業の実施（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会実施（学識者による指導・助言）

### 使用教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書
- ・ ワークブック
- ・ 学校行事と関連したタスクで使用する独自教材
- ・ 多読用教材（レベル別 ステージ1～2）
- ・ 辞書
- ・ 資格取得用教材
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

### 〔第二年次〕

#### 研究の重点

- ・ 1年次のカリキュラム・学習到達目標・指導内容（教材）・指導法・評価についての検証と修正を行う。
- ・ スピーチ、プレゼンテーション、討論の指導方法の研究を行う。

#### 実践内容の概要

- ・ カリキュラム・学習到達目標・評価計画の検討及びその修正を行う。
- ・ 開発したタスクの検討と修正を行う。
- ・ スピーチ・プレゼンテーション・討論の指導を行う。
- ・ 即興で自分の思いを話すことができる機会を日常的に設ける。
- ・ 多読の習慣が定着するような素地作りをする。
- ・ 異学年間で、英語で交流する機会を設ける。
- ・ 研修旅行での日本文化紹介や現地での交流体験を基にしたプレゼンテーションを ICT 機器も活用して行う。
- ・ 外部検定試験を活用する。
- ・ 研究授業を実施する。（学識者による指導・助言）
- ・ 指導者の研修会を実施する。（学識者による指導・助言）

### 使用教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書
- ・ ワークブック
- ・ 学校行事と関連したタスクで使用する教材
- ・ 発信型タスクで使用する独自教材
- ・ 多読用教材
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

### 〔第三年次〕

#### 研究の重点

- ・ より高度な言語活動（スピーチ・プレゼンテーション・討論・ディベート・交渉等）の実践を本格的に行う。

- ・社会的な話題や時事問題について情報の概要を的確に理解し、積極的に意見交換ができる力を育成する。

#### 実践内容の概要

- ・スピーチ・プレゼンテーション・討論・ディベート・交渉などの発表の場を設ける。
- ・英字新聞や ICT 機器などを用いて課題研究したり発表したりする機会を設ける。
- ・外部検定試験により英語力を検証する。（英検 2 級取得を目指す）
- ・研究授業を実施する。（学識者による指導・助言）
- ・指導者の研修会を実施する。（学識者による指導・助言）

#### 使用教材及び開発する教材

- ・検定教科書
- ・ワークブック
- ・学校行事と関連したタスクで使用する独自教材
- ・発信型タスクで使用する独自教材
- ・英字新聞、時事問題を取り上げた英文
- ・資格取得用教材
- ・多読用教材
- ・電子黒板等 ICT 機器教材

#### 〔第四年次〕

##### 研究の重点

- ・授業内・外での英語使用の場を設定し、高度化した言語活動を多用し、英語による発信型のコミュニケーションを能力の向上を図る。
- ・より高度な言語活動（スピーチ・プレゼンテーション・討論・ディベート・交渉）をさらに深化した内容で行う。
- ・社会的な話題や時事問題に加えて、抽象的な概念についての英文を的確に理解し、意見をまとめる（エッセイライティング等）ことができる力を育成する。

#### 実践内容の概要

- ・高度化した言語活動の内容や量を再検討する。
- ・学習到達目標と言語活動の検証
- ・英語話者と即興である程度流暢にやりとりする機会を設定する。
- ・検定試験により英語力を検証する。（英検 2 級、準 1 級取得を目指す。）
- ・研究授業を実施する。（学識者による指導・助言）
- ・指導者の研修会を実施する。（学識者による指導・助言）
- ・4 年間の取組の検証

#### 使用教材及び開発する教材

- ・検定教科書

- ・ ワークブック
- ・ 学校行事と関連したタスクで使用する独自教材
- ・ 発信型タスクで使用する独自教材
- ・ 英字新聞、時事問題などの社会性の高い内容や抽象的な概念を取り上げた英文
- ・ 多読用教材
- ・ 資格取得用教材
- ・ 電子黒板等 ICT 機器教材

#### ○平成27年度の進捗状況・課題

##### 小学校【教科型】

##### 進捗状況

- ・ 学習到達目標と評価について児童の実態に合わせて学習到達目標を見直している。評価については、パフォーマンス評価のルーブリックを作成している。
- ・ モジュール活動の定着が進んでいる。
- ・ 日本の伝統文化（おせち料理等の食文化）や社会科（環境問題）と連動したタスク活動などを行い実施している。
- ・ Hi, friends! Plus を活用し文字の認識や書き方、文字と文字との間隔を意識した指導を行っている。
- ・ 文字への意識を高めながら、Oxford Reading Tree の Stage1 から Stage3 までの読み聞かせを行っている。
- ・ 文字の導入として興味のあることばやフレーズについて調べ、グループ発表を実施している。
- ・ 「読むこと」に関してはフォニックスを教えたり、コミュニケーション活動で使う表現の文字を掲示したりして文字に親しむ機会を増やし指導している。「書くこと」に関してはアルファベットを書く位置に注意を払いながら指導している。
- ・ フォニックスの歌等を取り入れ、文字と音の関係に気づくよう支援している。また、日本語の文と英語の文を比較しながら、文構造への気づきを促している。
- ・ 学期に一度、大学の教授を招き指導助言を依頼した。
- ・ 本校中学校の英語専科教員を指導者に短時間学習に関する研修会を実施した。

##### 課題

- ・ 学習到達目標、評価ともに具体性を高める必要がある。評価実施後、どのように児童へのフィードバックをしていくか考える必要がある。
- ・ 短時間学習について、学級担任の視点から年間指導学習計画を見直す必要がある。
- ・ 学級担任のアイデアを活かして、より多くの場面で他教科と連携する可能性を探る必要がある。
- ・ 多読へつなげるために、多読本をより多く揃えるなど環境の整備をする必要がある。
- ・ フォニックスに関しては各学年で重複しているところが出てきているので、系統立てた指導ができるように学習計画を早急に見直す必要がある。また、文構造への気づきについては教材が少ないので児童の興味を引くような題材を探す必要がある。
- ・ 授業力向上および英語教授法の知識を深めるために、指導助言の回数を増やす必要がある。
- ・ 実施回数が少なく研修が十分にできていないので、研修会の回数を増やす必要がある。

- ・アルファベットの読み書きとヘボン式ローマ字については、4年生で学習した訓令式（日本式）ローマ字の弊害（「し」を si, 「ち」を ti と書くなど）が見られるが、なかなか克服できていない。訓令式（日本式）ローマ字とフォニックスの知識が混同し混乱が見られるため、それらを克服するためのアプローチを考える必要がある。
- ・ピクチャー・ディクショナリーを用いた辞書指導では、場面ごとに語句がまとめられているので、その場면을有効に使ったコミュニケーション活動を設定する必要がある。

#### 〔小学校〕【外国語活動型】

##### 進捗状況

- ・学習到達目標と評価について検証を行っている。その中で検討が必要な部分については来年度のカリキュラム・学習到達目標・評価計画に修正を加えている。
- ・「話すこと」の言語活動について指導内容・指導方法の研究を行っている。
- ・他教科（総合・社会科）・日本の伝統文化・学校行事等と連携したタスク活動の開発を実践している。
- ・外国や自国の文化について理解したり触れたりできるような単元や教材を研究開発している。
- ・効果的なICT機器（例えば ipad）の活用について研究している。
- ・学期に一度、大学の教授を招き指導助言を依頼した。
- ・本校中学校からの英語専科教員を中心に短時間学習に関する研修会を実施した。

##### 課題

- ・他教科や学校行事との関連性をより重視したカリキュラム作りを行い、児童の興味をさらに惹きつける教材研究を行う必要がある。そのためには単元作りから学級担任主体で指導計画も立て直していくことが大切であると考えます。
- ・効果的な読み聞かせ教材の開発をするとともに読み聞かせ活動を積極的に導入していく。
- ・実施回数が少なく研修が十分にできていないので全教員を対象とした研修会の回数を増やす必要がある。
- ・文字指導を意識したペンマンシップの開発やアルファベットの読み書きとヘボン式ローマ字の定着を図る教材等を開発していきたい。

#### 〔中学校〕

##### 進捗状況

- ・作成したカリキュラム・学習到達目標・評価計画に従って授業を行っている。その中で検討が必要な部分については来年度のカリキュラム・学習到達目標・評価計画に修正を加えている。
- ・開発したタスク活動の検討と修正を行い、来年度につなげるようにしている。
- ・質問力をつける指導方法について研究を進めている。
- ・論理的に「書くこと」「話すこと」の力をつけるために高度化した言語活動の基礎をつけるスピーチ・プレゼンテーション・ディスカッションの指導を行っている。また、即興でやりとりもできるように指導を行っている。
- ・指導者と生徒とのやりとりも含んだ、英語を用いた授業作りを実践している。

- ・中学校 3 年生は全員，外部検定試験（英語検定第 3 回）を受験するようにしている。
- ・定期的に学識者を招き，研究授業を参観していただき，指導助言をいただいたり，研修会に参加したりして，授業力向上を図っている。

### 課題

- ・中学 1 年生の 2 学期から，朝の時間を利用して多くの英文に触れる機会(Reading Time)を設定し，多読へつなげる取組を始めたが，3 学年を通して系統立った指導ができるように検討する必要がある。
- ・来年度より，本小学校より教科化された英語（週 3 時間）の授業を受けた児童や他校の小学校より週 1 時間の英語活動を経験した児童が入学してくる。入学生徒の格差解消に向けて「読むこと」「書くこと」も含めて，入門期の指導内容・指導方法についての研究を早急に進める必要がある。
- ・論理的に話したり書いたりするために，国語教育との連携も必要である。

### [高等学校]

### 進捗状況

- ・昨年度は 1・2 年のみであった『CAN-DO リスト』の形での学習到達目標を，中学校とのつながりを意識して全学年コース別に作成した。また，『学習指導・評価計画表』も作成した。
- ・昨年度実施した 2 年生での海外研修旅行と関連づけたタスクに修正を加え，引き続き実施している。海外研修旅行に向けて日本文化のグループプレゼンテーションには中学 3 年生も参加し，異学年交流を行った。
- ・中学校の流れを受け，論理的に「書くこと」「話すこと」の力をさらに伸ばしていくために，より社会的な内容について，スピーチ・プレゼンテーション・ディスカッション，ディベートの指導を行っている。
- ・教科書本文や初見の英文，英字新聞に触れる際に，即興で自分の思いや意見を述べたり，内容を正確にとらえて相手に説明したりする機会を日常的に設けている。
- ・多読を習慣づける素地作りとして，図書室の一角に「多読コーナー」を設け，全校集会で全学年の生徒に呼びかけて気軽に英語の図書に触れられる環境を整えた。
- ・高校 2 年生は全員，外部検定試験（英語検定第 3 回）を受験するようにしている。
- ・定期的に学識者を招き，研究授業を参観していただき，指導助言をいただいたり，研修会に参加したりして，授業力向上を図っている。

### 課題

- ・コース別に設定した学習到達目標や教育内容が適切であるかの再確認をし，必要に応じて修正しながら教員間で周知を図らなければならない。
- ・ディスカッション，ディベートなどの高度化した言語活動の効果的な指導方法を指導者間で情報交換・共有し，確立していく必要がある。
- ・高度化した言語活動の中での ICT 器機の効果的な活用方法を探っていく必要がある。

## (6) 評価計画 第一年次～第四年次, 校種別

## 【小学校】教科型

	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
対象学年	5年	5・6年	5・6年	5・6年
4月	意識調査	意識調査	意識調査	意識調査
5月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
6月	授業観察	授業観察	検定試験 授業観察	検定試験 授業観察
7月	意識調査 自己評価 パフォーマンステスト 授業観察	意識調査 自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 授業観察	意識調査 自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 学力テスト 授業観察	意識調査 自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 学力テスト 授業観察
8月				
9月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
10月	授業観察	授業観察	授業観察 検定試験	授業観察 検定試験
11月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
12月	自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 授業観察	自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 授業観察	自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 授業観察 学力テスト	自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 授業観察 学力テスト
1月	授業観察	授業観察	授業観察 検定試験	授業観察 検定試験
2月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
3月	自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 授業観察	意識調査 自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 授業観察	意識調査 自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 学力テスト 授業観察	意識調査 自己評価 CAN-DO リスト パフォーマンステスト 学力テスト 授業観察

○平成27年度の進捗状況・課題

進捗状況

- ・概ね計画通り実施している。

課題

- ・意識調査についての質問項目等について検討が必要である。
- ・CAN-DO リストの再検討と検証を行う必要がある。



## 【小学校】活動型

	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
対象学年	1～4年	1～4年	1～4年	1～4年
4月	意識調査	意識調査	意識調査	意識調査
5月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
6月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
7月	意識調査 自己評価 相互評価 授業観察 ワークシート 作品・発表	意識調査 自己評価 相互評価 CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 作品・発表	意識調査 自己評価 相互評価 CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 作品・発表	意識調査 自己評価 相互評価 CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 作品・発表
8月				
9月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
10月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
11月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
12月	自己評価 相互評価 CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート	自己評価 相互評価 CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 作品・発表	自己評価 相互評価 CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 作品・発表	自己評価 相互評価 CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 作品・発表
1月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
2月	授業観察	授業観察	授業観察	授業観察
3月	自己評価 相互評価 ワークシート 作品・発表 意識調査 CAN-DO リスト 授業観察	自己評価 相互評価 ワークシート 作品・発表 意識調査 CAN-DO リスト 授業観察	自己評価 相互評価 ワークシート 作品・発表 意識調査 CAN-DO リスト 授業観察	自己評価 相互評価 ワークシート 作品・発表 意識調査 CAN-DO リスト 授業観察

○平成27年度の進捗状況・課題

進捗状況

- ・概ね計画通り実施している。

課題

- ・意識調査についての質問項目等について検討が必要である。
- ・CAN-DO リストの再検討と検証を行う必要がある。

## 【中学校】

	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
対象学年	第1学年	第1・2学年	第1・2・3学年	第1・2・3学年
4月	意識調査(中1)	意識調査	意識調査	意識調査
5月	パフォーマンステスト 定期テスト	パフォーマンステスト 定期テスト	パフォーマンステスト 定期テスト	パフォーマンステスト 定期テスト
6月	検定試験	検定試験 授業内テスト	検定試験 授業内テスト	検定試験 授業内テスト
7月	パフォーマンステスト 定期テスト 意識調査(中1)	パフォーマンステスト 授業内テスト 定期テスト 意識調査 CAN-DO リスト ワークシート 課題	パフォーマンステスト 授業内テスト 定期テスト 意識調査 CAN-DO リスト ワークシート 課題	パフォーマンステスト 授業内テスト 定期テスト 意識調査 CAN-DO リスト ワークシート 課題
8月				
9月	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト 授業内テスト	パフォーマンステスト 授業内テスト	パフォーマンステスト 授業内テスト
10月	検定試験 定期テスト	検定試験 定期テスト	検定試験 定期テスト	検定試験 定期テスト
11月	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト 授業内テスト	パフォーマンステスト 授業内テスト	パフォーマンステスト 授業内テスト
12月	定期テスト CAN-DO リスト	定期テスト CAN-DO リスト ワークシート 課題	定期テスト CAN-DO リスト ワークシート 課題	定期テスト CAN-DO リスト ワークシート 課題
1月	検定試験	検定試験 授業内テスト	検定試験 授業内テスト	検定試験 授業内テスト
2月	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト 授業内テスト	パフォーマンステスト 授業内テスト	パフォーマンステスト 授業内テスト
3月	意識調査(中1) 定期テスト CAN-DO リスト	意識調査 定期テスト CAN-DO リスト ワークシート 課題	意識調査 定期テスト CAN-DO リスト ワークシート 課題	意識調査 定期テスト CAN-DO リスト ワークシート 課題

- \* 定期テストには必ず、活用型（読解力）の問題を入れる。
- \* タスク終了後、自己評価シート等で振り返りをする。
- \* タスクでの授業観察を行う。

## ○平成27年度の進捗状況・課題

進捗状況

- ・概ね計画通り実施している。

課題

- ・意識調査についての質問項目等について検討が必要である。
- ・CAN-DO リストの再検討と検証を行う必要がある。

## 【高等学校】

	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
対象学年	第1学年	第1・2学年	第1・2・3学年	第1・2・3学年
4月	意識調査	意識調査	意識調査	意識調査
5月	パフォーマンステスト 定期テスト	パフォーマンステスト 定期テスト	パフォーマンステスト 定期テスト	パフォーマンステスト 定期テスト
6月	検定試験	検定試験	検定試験	検定試験
7月	パフォーマンステスト 定期テスト 意識調査	パフォーマンステスト 定期テスト リスニングテスト CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 課題 意識調査	パフォーマンステスト 定期テスト リスニングテスト CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 課題 意識調査	パフォーマンステスト 定期テスト リスニングテスト CAN-DO リスト 授業観察 ワークシート 課題 意識調査
8月				
9月	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト
10月	検定試験 定期テスト	検定試験 定期テスト	検定試験 定期テスト	検定試験 定期テスト
11月	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト
12月	定期テスト CAN-DOリスト	定期テスト リスニングテスト CAN-DOリスト 授業観察 ワークシート 課題	定期テスト リスニングテスト CAN-DOリスト 授業観察 ワークシート 課題	定期テスト リスニングテスト CAN-DOリスト 授業観察 ワークシート 課題
1月	検定試験	検定試験	検定試験	検定試験
2月	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト
3月	意識調査 定期テスト CAN-DOリスト	意識調査 定期テスト リスニングテスト	意識調査 定期テスト リスニングテスト	意識調査 定期テスト リスニングテスト

		CAN-DOリスト 授業観察 ワークシート 課題	CAN-DOリスト 授業観察 ワークシート 課題	CAN-DOリスト 授業観察 ワークシート 課題
--	--	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

- \* 定期テストには必ず，活用型（読解力）の問題を入れる。
- \* タスク終了後，自己評価シート等で振り返りをする。

## ○平成27年度の進捗状況・課題

### 進捗状況

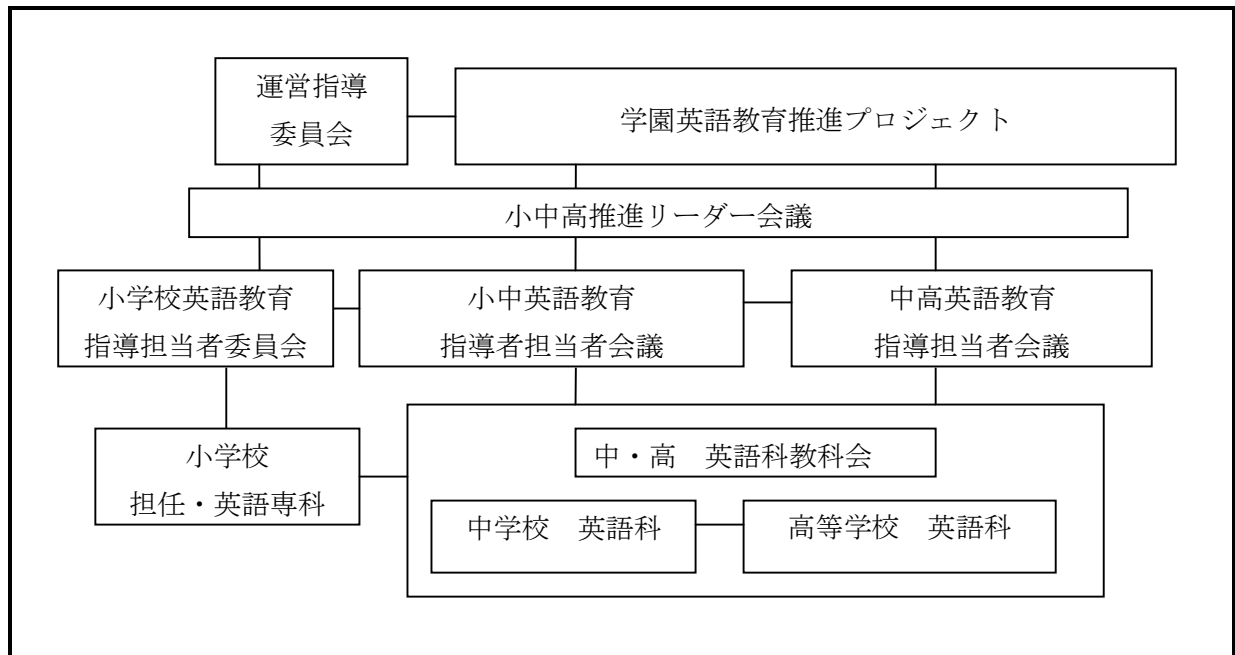
- ・意識調査は5月に1回実施した。
- ・パフォーマンステストについては第1学年の1学期は実施できていない。第3学年の2学期以降は実施していない。

### 課題

- ・意識調査についての質問項目等について検討が必要である。
- ・パフォーマンステストがより適切なものとなり，かつ計画通りに実施できるように，内容や実施方法について検討を行う。
- ・CAN-DOリスト，学習到達目標の再検討と検証を行う。

## 4. 研究組織

## (1) 研究組織の概要



## ★ 学園英語教育推進プロジェクト

(小中高の校長・教頭，小・中・高英語教育推進リーダー，学園事務局，運営指導委員会から木戸教授で編成)

- ・運営指導委員会の先生の指導助言のもと共通理解を深め英語教育の推進を図る。

## ★ 小中高推進リーダー会議

- ・週1回，推進リーダー会議を持ち，本校小中高連携した英語教育の在り方を検討していく。

## ★ 小学校英語教育指導担当者委員会 (小学校の英語推進リーダー・管理職含)

- ・定期的に指導者会議を持ち，具体的な授業の指導方法や研究授業の計画等を行う。
- ・「活動型」「教科型」の授業についての研究と実践
- ・運営指導委員会の先生の指導のもと具体的な内容・授業の実際等検討し進めていく。
- ・決定事項を小学校英語指導担当者委員会が主導となって，小学校に英語教育を推進していく。

## ★ 小中英語教育指導者担当者会議 (小・中の英語推進リーダー・管理職含)

- ・定期的に会議を持ち，小中の接続のための英語教育・方向性の確認，授業と評価等について協議・研究を行う。
- ・小学校と中学校の授業交流の企画

## ★ 中高英語教育指導担当者会議 (中・高の英語推進リーダー・管理職含)

- ・定期的に会議を持ち，中高の接続のための英語教育・方向性の確認，言語活動の高度化に向けた授業と評価等について協議・研究を行う。

- ・英語授業改善に向けて，改善授業の実践報告・公開授業の企画等を行う。
- ・決定事項を中高英語科教科会に伝達・推進していく。

★ 英語科教科会議

- ・週1回の教科会議において，具体的な指導法，授業展開について協議し実践していく。
- ・授業改善に向けて，教科内で研修会や勉強会を実施する。

(2) 運営指導委員会

①活動計画

○活動計画

★ 学園・小・中・高 英語教育推進プロジェクト

(小中高の校長・教頭・英語推進リーダー・学園事務局・運営指導委員会から木戸教授で編成)

- ・運営指導委員会の先生の指導助言のもと共通理解を深め英語教育の推進を図る。
- ・年間企画・計画・予定の立案をする。
- ・指導者担当者会議を立ち上げ，英語教育を推進していく。

★小中高推進リーダー会議

- ・週1回，推進リーダー会議を持ち，本校小中高の取組について共通理解をし，連携した英語教育の在り方を検討していく。また，共通理解したことや検討課題等を他の委員会へ報告・検討を行う。

★ 小学校英語教育指導担当者委員会

(小の英語推進リーダー・ネイティブ・5, 6年担任・管理職)

- ・運営指導委員の先生による指導のもと具体的な内容・授業の実際等検討し進めていく。
- ・週1回指導者会議を持ち，具体的な授業の指導方法や研究授業の計画等を行う。

★ 運営指導委員会

(学園推進プロジェクトと運営指導委員会担当の先生方との協議会)

- ・小学校の英語活動から教科化への移行の状況について指導・助言をする。
- ・小学校英語の実際の検証と改善，今後の方向性と展望を協議する。
- ・カリキュラムと評価について検討する。
- ・中高の英語科の取組についての指導・助言と授業の実際検証を行うなど。

★ 小中英語教育指導者担当者会議

- ・小学校と中学校の円滑な接続についての検討や授業交流を行う。また，方向性の確認や授業と評価について等について協議する。

## ★ 中高英語教育指導担当者会議

- ・ 英語授業改善に向けて、公開授業を行い運営指導委員会の先生による指導・助言をへて、改善授業の実践等を行う。

## ★ 英語科教科会議

- ・ 週1回の教科会議において、英語科教育全員の取組についての共通理解と具体的な指導法、授業展開について協議し実践していく。
- ・ 授業改善に向けて、教科内で研修会や勉強会を実施する。

## ○平成27年度の進捗状況・課題

進捗状況

- ・ 本年度より週1回、小・中・高推進リーダー会議を持ち、小中高の英語教育について共通理解や課題について検討している。
- ・ 本年度、運営指導委員の先生方と連絡調整をしながら、定期的に授業を参観していただくようにしている。そして英語教育・授業等についてご指導いただき、授業力向上につながる助言等いただき実践している。
- ・ 週1回の英語科教科会では取組についての共通理解や課題について検討を行っている。

課題

- ・ 小学校英語教育指導担当者委員会の活性化が必要である。
- ・ 小中と中高の連携・接続に向けての担当者会議を充実させる必要がある。

## 5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学園英語教育推進プロジェクト</li> <li>・ 指導担当者会議（小・中・高）</li> <li>・ 推進リーダー会議</li> </ul>	
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中高英語授業研修</li> <li>・ 推進リーダー会議</li> <li>・ 学識経験者と推進リーダーとの会議</li> </ul>	第1回運営指導委員会
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進リーダー会議</li> <li>・ 研修会</li> </ul>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導担当者会議（小・中・高）</li> <li>・ 推進リーダー会議</li> <li>・ 学識経験者と推進リーダーとの会議</li> </ul>	

8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園英語教育推進プロジェクト</li> <li>・指導担当者会議（小・中・高）</li> <li>・研修会（小中高全体研修含）</li> <li>・推進リーダー会議</li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導担当者会議</li> <li>・研修会</li> <li>・推進リーダー会議</li> <li>・学識経験者と推進リーダーとの会議</li> </ul>	第2回運営指導委員会
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中高英語授業研修</li> <li>・研修会</li> <li>・推進リーダー会議</li> </ul>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導担当者会議（小・中・高）</li> <li>・小中高英語授業研究発表会予定</li> <li>・推進リーダー会議</li> <li>・学識経験者と推進リーダーとの会議</li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進リーダー会議</li> </ul>	
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導担当者会議（小・中・高）</li> <li>・研修会</li> <li>・推進リーダー会議</li> <li>・学識経験者と推進リーダーとの会議</li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導担当者会議（小・中・高）</li> <li>・推進リーダー会議</li> </ul>	第3回運営指導委員会
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園英語教育推進プロジェクト</li> <li>・指導担当者会議（小・中・高）</li> <li>・推進リーダー会議</li> <li>・学識経験者と推進リーダーとの会議</li> </ul>	
【その他の取組】※あれば記入		